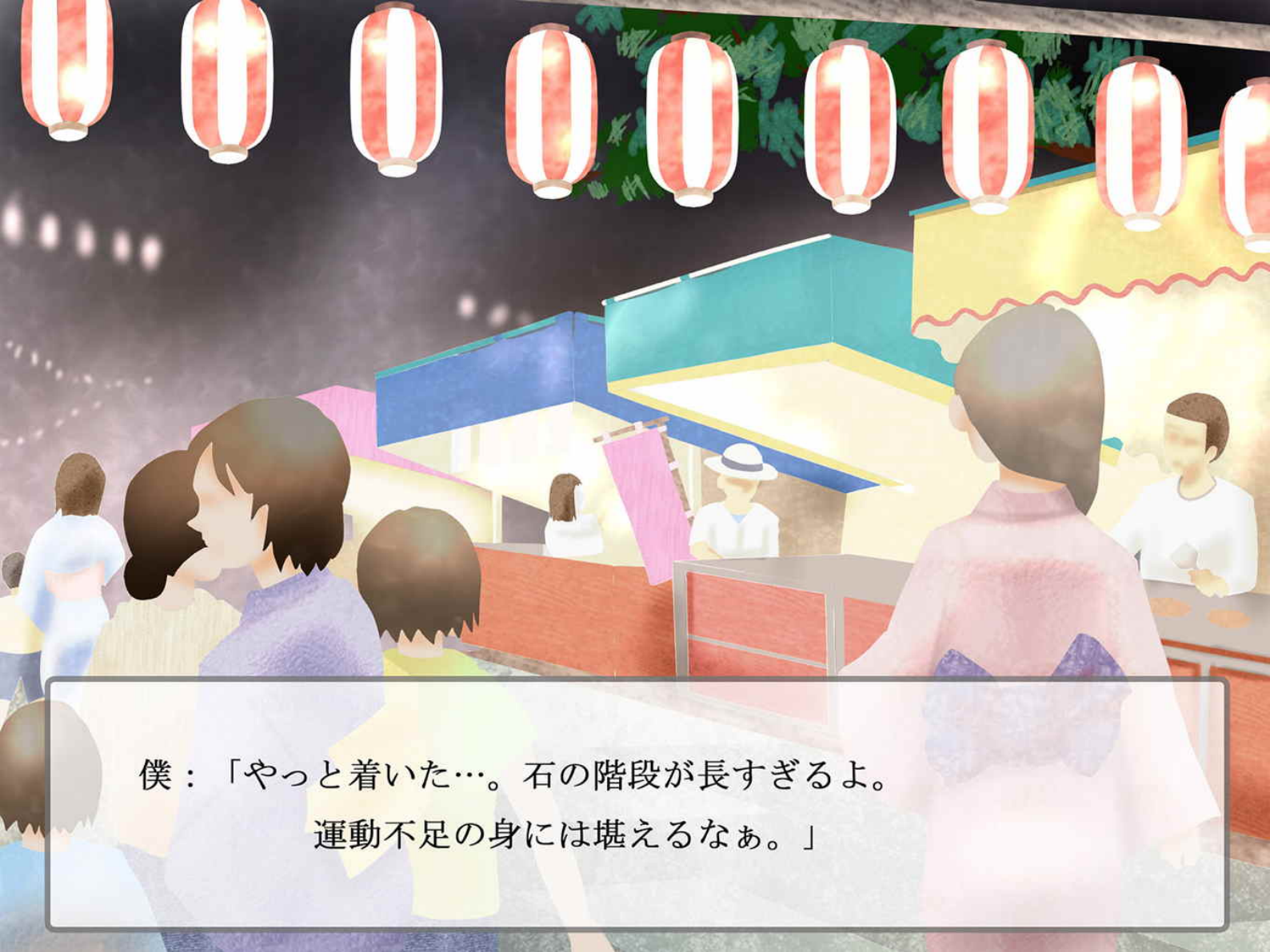


ひぐらし神社



祭りの夜に





僕：「やっと着いた…。石の階段が長すぎるよ。
運動不足の身には堪えるなあ。」



僕：「こんな田舎の祭りには、結構盛況なんだな。
観光のついでに来てみてよかった。」



みる。

そこのおじさん、

どこから来たのですか？

ちょっと梨花、

いきなり「おじさん」は

失礼だと、あれほど…

僕：

ん？



観光ですか？
お一人かしら。

ひららし神社の
お祭りだよー！

なのです。

私たち、この神社の
者です。

こんばんは、
なのです。

楽しんでこのお祭りを
楽しんでますよ。

僕：「あ、こんばんは。」
(ここの人は随分気さくに話しかけてくるんだなあ。)

さっき神事が終わって
やっと手が空きましたの。

で、今から神社裏で
観光で来た人向けに
催し物をしますです。

是非来て欲しいのです。
にぱ。

僕：（に、にぱー？）
「えっと、今すぐ？」

祭りを堪能してから
来ていただいて結構
ですわ。

お財布は持ってきて

くださいな。

損はさせませんわよ♥

一人で来るのですよ。

待ってるのです。

僕：「ちょ、ちょっと待って、何のイベント？
いくら掛かるの？あっ、ちょっと…」



僕：「行っちゃったよ…何なんだ。」

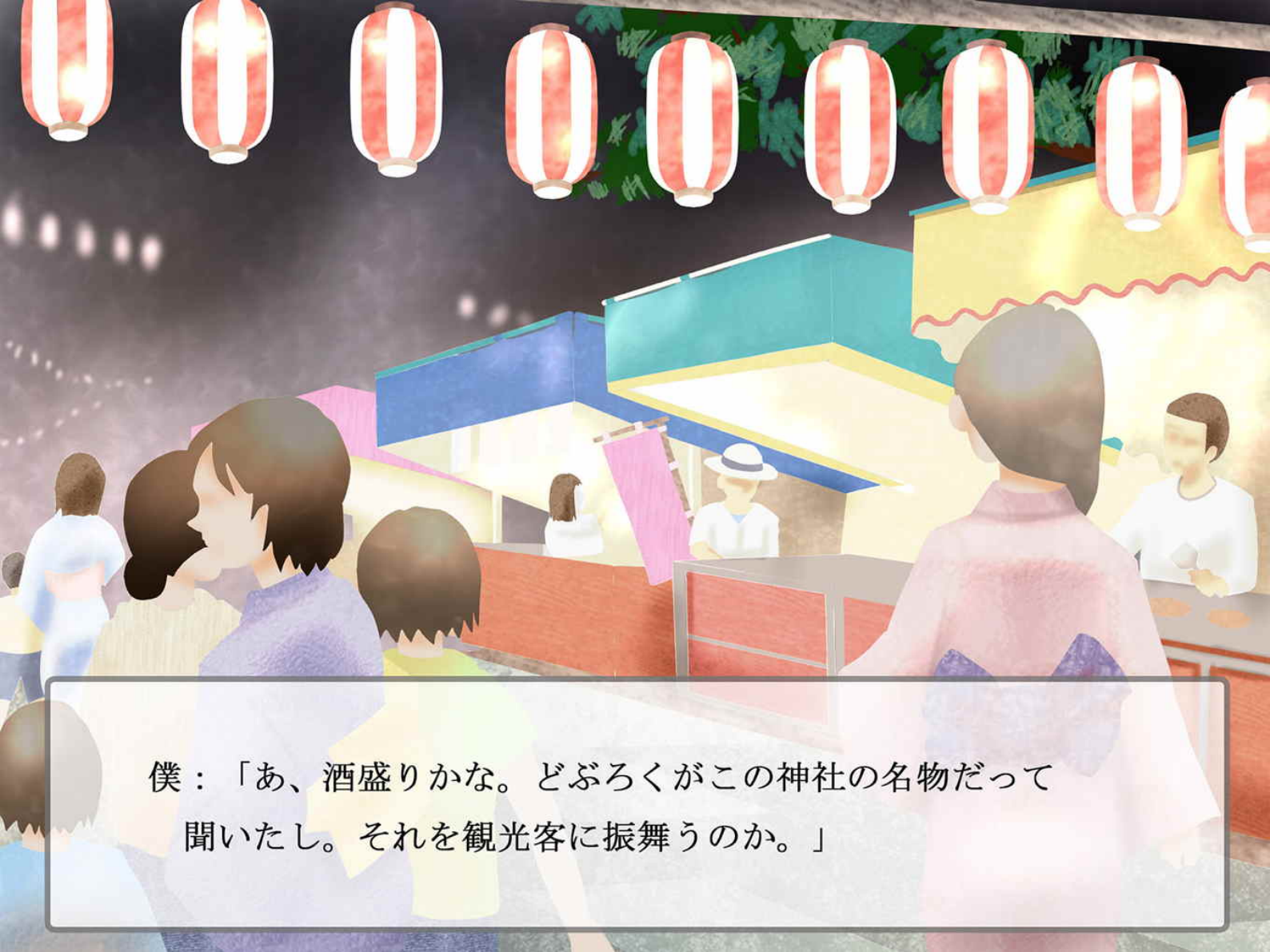


僕：「慌ただしい娘達だったなあ。可愛かったけど。」



僕：「しかし何の催し物をするんだらう。

有料で、神社の裏で。何かうさんくさいような…」



僕：「あ、酒盛りかな。どぶろくがこの神社の名物だって聞いたし。それを観光客に振舞うのか。」




僕：「川魚の味噌焼きとか山菜の天ぷらをつまみに
どぶろくかあ、あの娘たちのお酌で。それはイイ！」




僕：「可愛かったもんな、あの二人。きわどい巫女服とあのロリ巨乳。」




僕：「屋台を少しぶらついたらすぐ行ってみるか。」




僕：「迷ってしまった…。この辺りが神社の裏手だと思うんだけど。
催し物をやっている雰囲気じゃないなあ。真っ暗だ。」



僕：「騙されたか？ う～ん、嘘を言ってるようには見えなかったけどなあ。」



僕：「それよりも…ここは暗くて不気味だ。仕方ない、
戻ろう…ん？」



僕：「建物から明かりが漏れてる。なんだこの中に行なってるのか。
折角だから覗いてみよう。」



僕：「え…あの二人、何をやってるんだ？
裸の男相手に… え？どういうこと？これは…」

顔の上に
パンツで座ってくれ
だなんて。

とんだ変態
野郎なのです。

気持ちいいですか？
はい、シロシロ〜
シロシロ、シロシロ





あは、
出ましたわね。

なかなか
聞き分けの良い
おチンポなのです。



では、三千元
納めていただき
ますわよ。

しばらく休んで
また出したくなったら
してあげるのはです。

はあ
はあ



は〜い、
次の人おまたせ
なのです〜

貴方も顔の上に
座って欲しいの
ですの？

まったく物好き
ですわ。

うっ！

ドスツ



擦る前から
おちんぽピンピン
なのです♡

それではシロシロ
してあげるので、
うふふ、うふふ

うふふ♡

梨花の手コキの
お味はいかが？

シヨシコ



我慢しちや

駄目なのですよ

いきたくなったら

我慢せずに

イハのびすよ。

じゅんじゅん

イってくださいな。

わたくしの匂いを

嗅ぎながらね♡

シヨシヨ
シヨシヨ



あっ、出た
出たのですー！

沙都子の匂いに
イカされちゃった
のですー！

ぞうぞうするの？
うひひ。

もしぞうぞうなら
うれしいですわ♥



見事なイキっぷり
だったのですよ。

では三千円
納めてもらい
ます。

まだイけそう
かしら？

しばらくお休み
なさいませ♥



お次の方、は
足コキご希望ですか。

最近の殿方は
フェチ性癖持ちが
ほんと多いですわね。

困った方達ですわ。
うふふふふ♡



みる、ボクの出番がないのですよ。

そこで見てあげて下さいな。この様を♡

足で擦られて勃起してるおちんちんをね♡



スリスリ

見ててあげるのです。
勃起ちんぽ、
見てますのですよ。

ほろ、おちんちん
年下の女の子の足で
こぼられてるぞいじょう
見られてますわよ♥

ほろほろ
いきますの？
アアアアアアアアア



みる、イきました♥
精液、出たのです。

あらあら
足でこすりだして
足の裏に射精しちゃっ
だなんて。

精子が不憫ですわ。
ふふふ。

どぴゅっどぴゅっ




お疲れ様なのですよ。
三千元お納め
願いますです♪


1万円で本番も
できちゃいますわよ。
是非この機会に
ご利用くださいませ♡

あく、今は無理
みたいですね。







僕：（なんだこれは…これじゃあまるで風俗店、いや風俗店
そのものじゃないか。こんな田舎の、しかも神社の中で。
しかもあんな純情そうな娘達が…）



僕：（それはそうと、随分代金は安いんだな…
3000円で要望どろりにイかせてくれて、
一万円で本番も… ）




僕：（初めての相手はあの巨乳の娘がいいな…
…いやこんなことしちやマズイだろ。
それに怪しすぎる、逃げたほうが）



あっ、来てくれたの
ですね、にぱっ。
嬉しいですよー♪

僕：「はっ、あっ、ああ
あの、あ、はい…
一体これは、どういうこと…？」



お祭りの後の恒例
裏行事なのですよ。

一人で来てる

観光客の男の人を

お誘いしてるの

ですー。

僕：「恒例って…

じゃあ村の人たちは

知ってるの、このこと？」



普段の日もこんな
やって稼いでるじゃ
ないしょなのですよ♪


祭りの日は
村の老人達も大目に
見てくれるのです。

僕：「村公認でやってるんだ、
毎年…。
信じられん、おかしいよ…」

神社を維持するのは
大変なのですよ。
ご協力下さいなのです。

ほらほら、おちんちん
触ってあげますです。
大人しくするのです♥

僕：「わっ、ちょっと
やめてやめて、あっ…
あっ、あっ」



はい、おちんちん
捕まえたのですよ♡
もう勃起してるのです。

期待していたのですね。

まずはウエルカム

手コキですよ〜♪

僕：「はうっ、ま、待って
そんな直接握られたら…」

お兄さん、
来てくださった
のですわね。

もう梨花に
おちんちん
こすられて。
ふふ。

沙都子も来たし、
そろそろ

観念するのです♥

僕「うっ、ああ、
気持ちいい…」

シロツツシロツツ



随分初々しい
反応を
されますのね。

もしかして
異性におちんちん
触られるの
初めてかしら？

僕「ひい、おっぱい、
大きい…凄い…」

ジロジロ
ジロジロ

「うらうら、

沙都子の胸じゃなくて

ボクの方を見なさいなのです。



うふふ。

大きいおっぱい
お好き？

そんなに

見つめられたら

乳首立って

しまいますわ♡

僕「はあっ、もう
いく、いっちゃうっ」

シタシタシタシタシタシタ

せう、

おっぱいおっぱい...

おっぱいおっぱいおっぱいおっぱい。

あらら、
イっちゃい
ましたの？

私のおっぱいに
興奮してしまった
のかい？♡

僕「出る、
出るうっ！」

ぴゅっぴゅっ

はっい、

まずは一発目

なのですっ♪



続けて

でききょうなう...

貴方の童貞、

私がいただき

ましてよ♡

とりあえず

三千円貰い受け

ますのです。





まあ、どうせ
こちらへ
なのです。

ちょっと
恥ずかしい
ですわ…

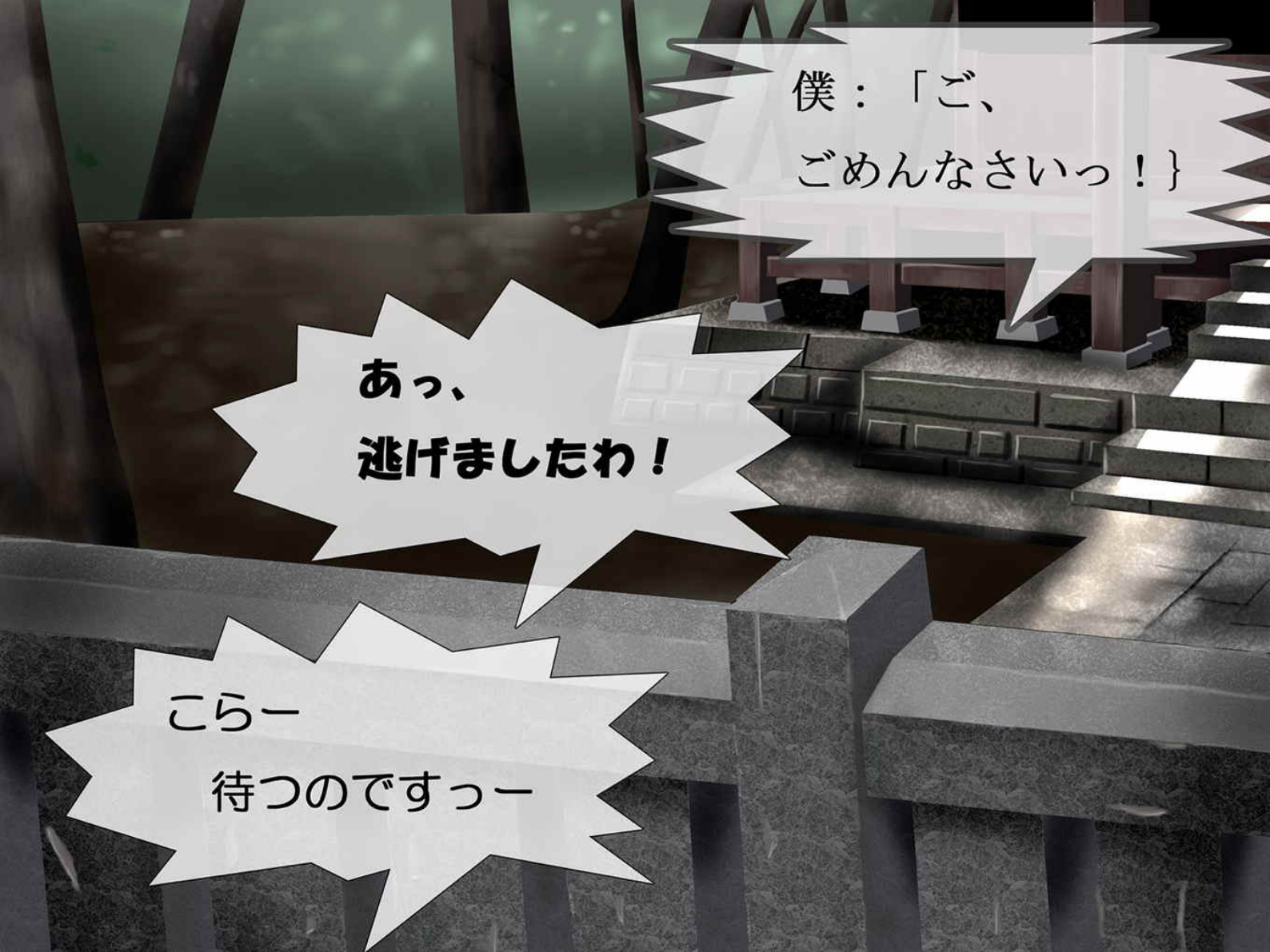
僕：「ぼ、僕が、この子と…？」

私が上になったほうが
よさそうですね。

どうしたの
ですか？

少し休んでからの
ほうがいいですか。

僕：「あ、あの、その…」 (ど、どうしよう…)

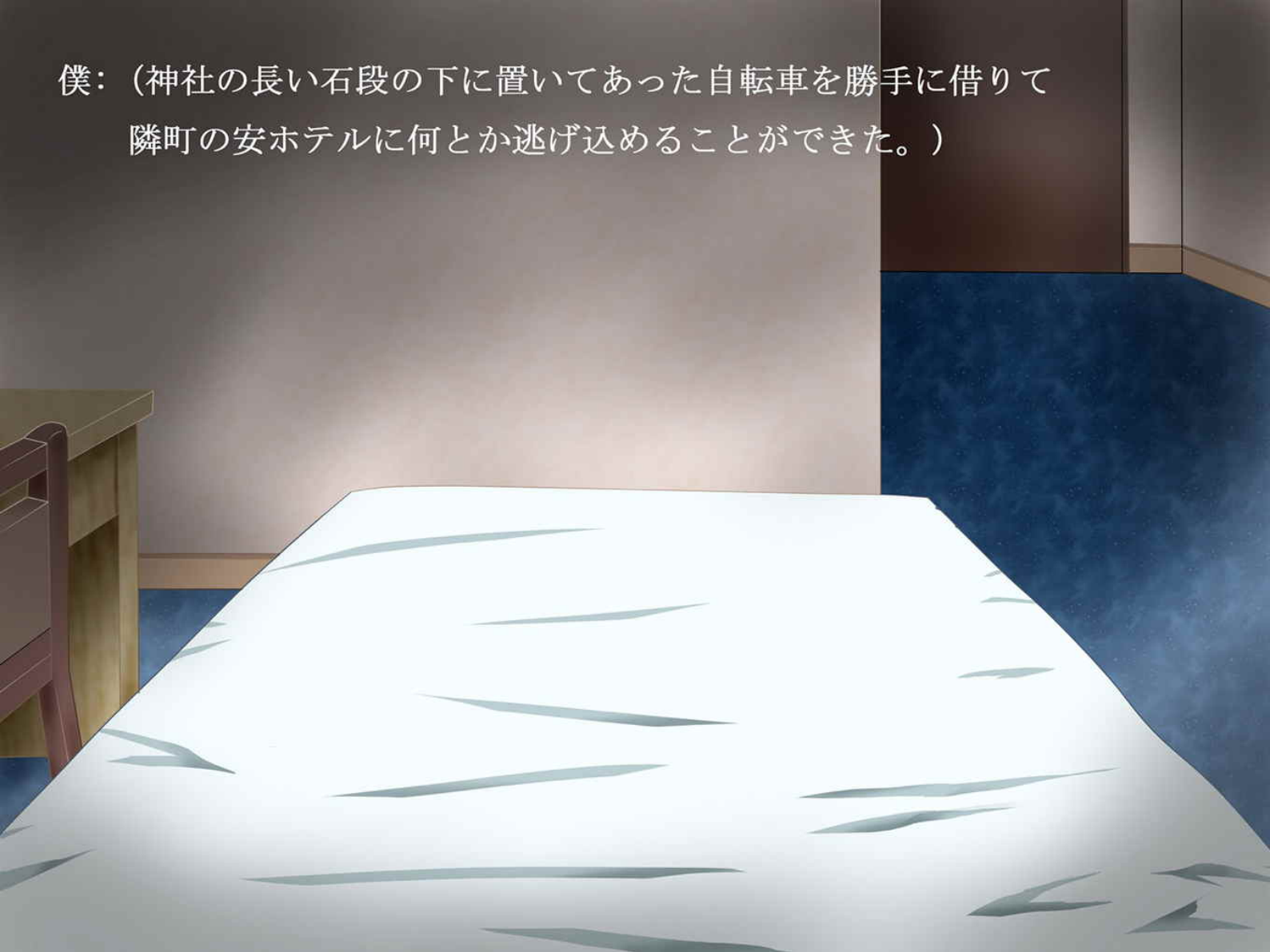


僕：「ご、
ごめんなさいっ！」

あっ、
逃げましたわ！

こらー
待つのですっー

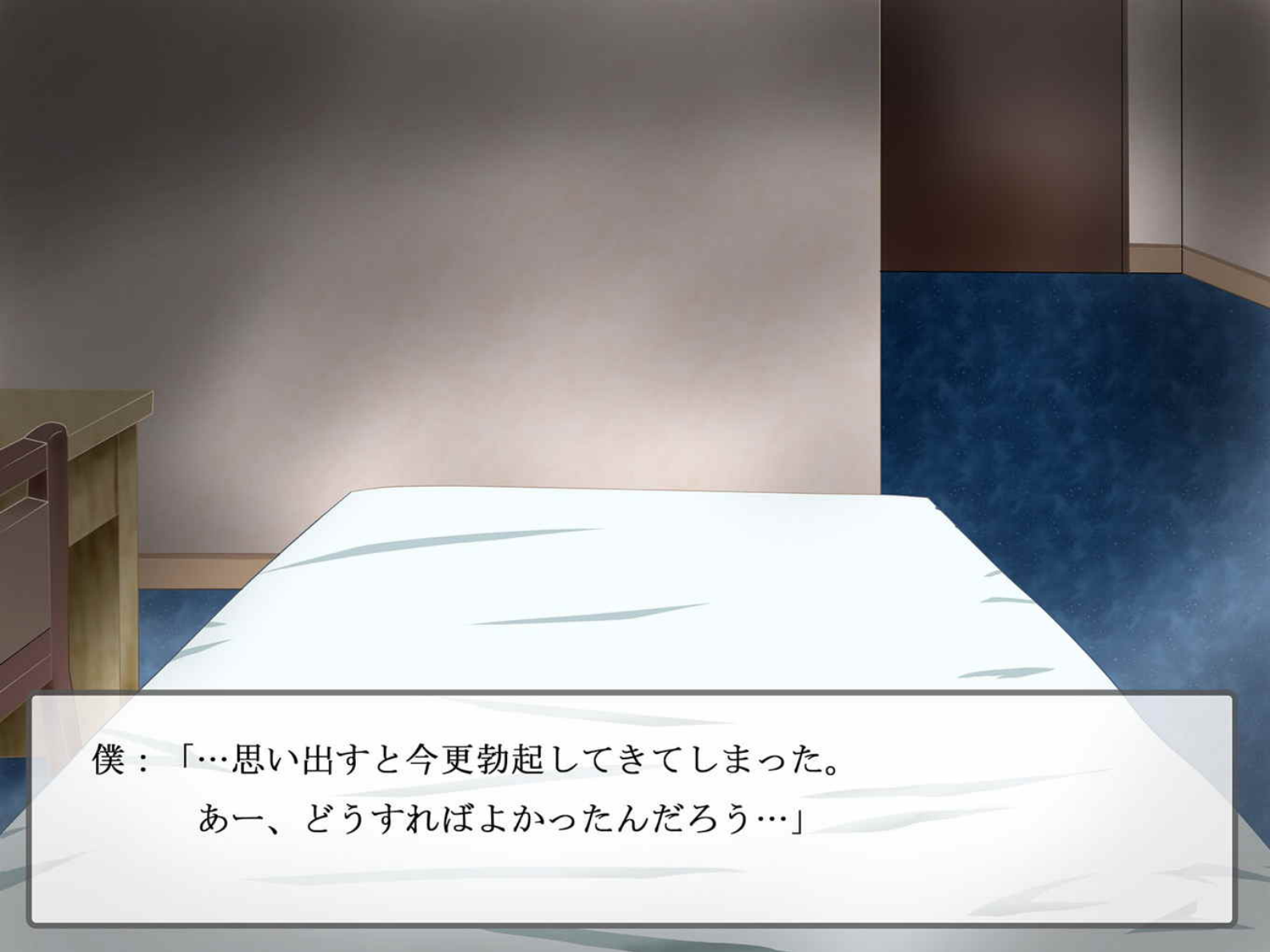
僕：（神社の長い石段の下に置いてあった自転車を勝手に借りて隣町の安ホテルに何とか逃げ込めることができた。）





僕：「怖くなって逃げてきたけど…

もしかしてすごくもったいないことをしてしまったかも…」

A bedroom scene with a bed and a nightstand. The bed is in the center, covered with a white sheet. To the left is a wooden nightstand. The floor is blue. The wall is light brown. A dark brown door is visible in the background.

僕：「…思い出すと今更勃起してきてしまった。

あー、どうすればよかったんだろう…」

コンコン

僕：「! えっ、…誰…」

こんぼんは
ですわー！
開けて下さい
ませー！

ここに居るのは
分かってるの
ですよー！

僕：「ひいっ！あの二人だ…
なんで…なんでここが分かるんだ…」

自転車か

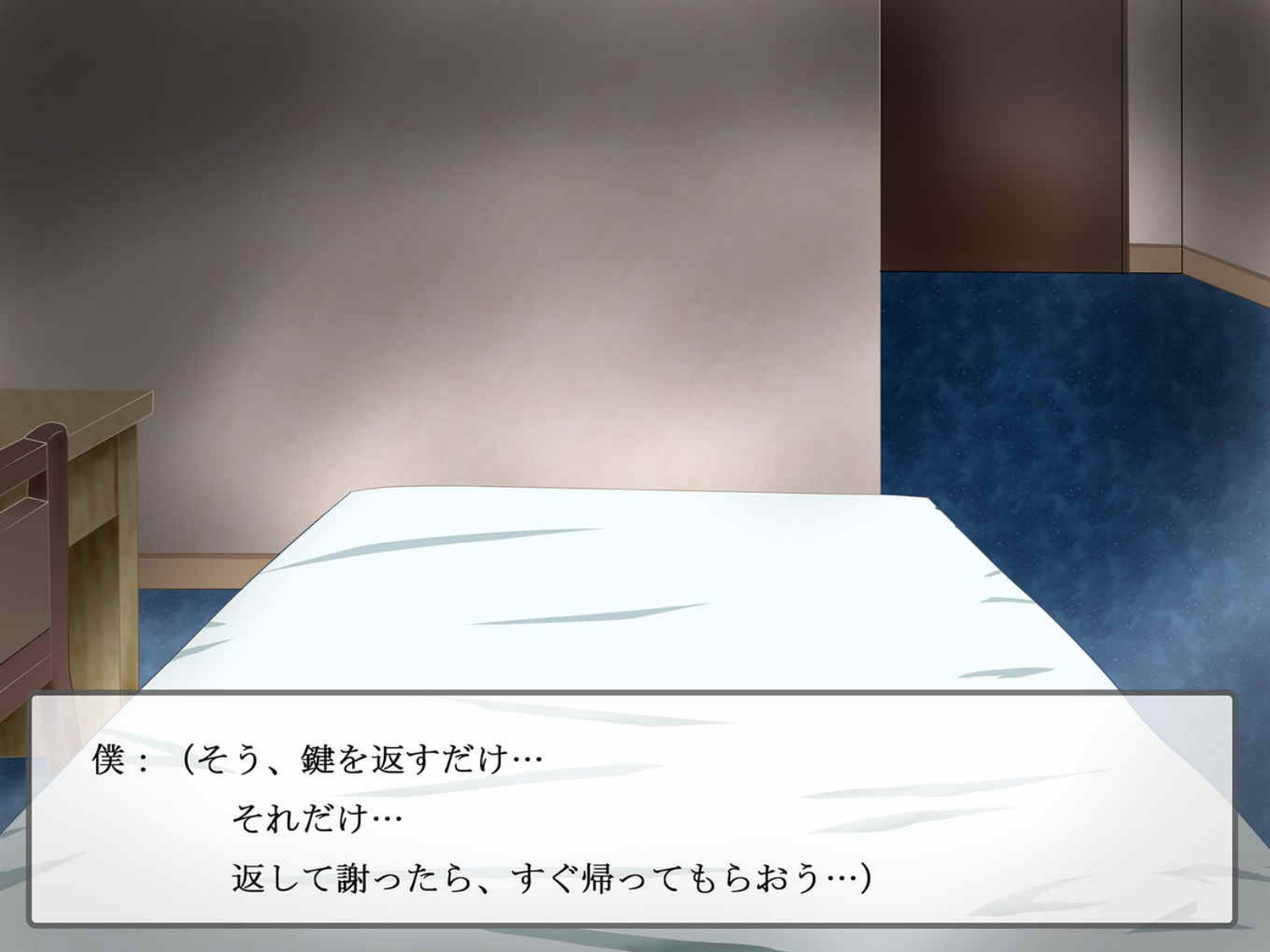
無いと困るのですわー！
返して下さいませー！。

怒ってないから
開けるの
ですー！。

僕：（あの娘たちの自転車だったのか…

返さないと窃盗犯になってしまう…

仕方ない、自転車の鍵を返して謝らないと。）



僕：（そう、鍵を返すだけ…

それだけ…

返して謝ったら、すぐ帰ってもらおう…）

まったく、急に

逃げるから

びっくりしましたわ。

この町の偉い人は
うちの村の出身者が
多いですよ。

頼んで探して
もらったのです。

僕：「ご、ごめんなさい。
鍵、返します。」



それで、
童貞を失う決心は
つきまじって？

さっきから
ちんぽ膨らませながら
私の胸を見てるの
分かってますのよ♡

はっい、
浴衣脱いで〜。
ちんぽにちんぽにちんぽ、
にちんぽにちんぽ♡

僕：「え？あつ、
ひいっ、ひっひっ」



初めからこうして
襲っておけば
よかったですわね。

最近の草食男子には
犯してあげるのが
優しさなのですか！。

まだまだ
勉強すべきことが
多いのです
にば〜♡

僕：「はあっ、
はあっ、ああっ」



ではボクが
犯してあげる
のです。

はい、
入りますの
ですよ！。

童貞喪失
おめでとう
なのですよ♥

ズプッ

僕：「ええ！もう一人の子とするんじゃあ…
うっ、ひいい」



逃げたから
沙都子は
怒ってるの
ですよ。

あれ〜
ボクでは
不満なの
ですか？

ボクまで
怒らせる気
なのですか♪

僕：「ああ…ごめんなさい…
うう、あああ、気持ちいいっ」



ほらほら
腰を振って
あげるのです。

こうすれば
どうせスグに
イってしまうの
でしょう？

ボクでも沙都子でも
一緒なのです♪

僕：「ひっ、ひっ、はっ、あっ、あっ、
いくっ、で、出るうっ」



あ、本当に
すぐイって
しまったのです。

早くイっても代金は
一万円なのですよ♡

ドブツ

僕：「うっ!、はあっ、はあっ、はあっ」

はいはい、続いて
私の番ですわよー。
覚悟はよろしい
かしら？

敵前逃亡した
おちんぽ、
拘束完了ですわ♡

ずぶずぶずぶっ

僕：「ひいっ、いきなり入れないでっ」
(なんか目が怖いっ)

今夜は

たくっぴり

絞って差し上げ

ますわー♡

ふひひ♪

もう

逃がしませんわよ。

観念して

くださいませ♡

くちゅっくちゅっ
くちゅっくちゅっ

僕：「ふっ、くっ、ああっ、あっ、あっ
そん、そんな激しく、待って、」

あつあつ
さっさとイって
くださいまし。

そろ、イって、
イって、イって
イけっ、イけっ、
イけっ♡

ずぶっずぶっずぶっ
ずぶっずぶっずぶっ

僕：「ひっ、はっ、はっ、へっ、い、いく、
いく、いく、いく、いく、いく、いくうーっ」

ふふふ

出た出た♥

沢山出ましたわ。

まずは一発
頂きましたわよ。

びゅっびゅっびゅっ

僕：「出るうううううっー！」

続けて

出来そうかしら？

しばらく休みたい？
それとも今日はもう
終わりにしますの？

僕：「ふうっ、ふーっ、あ、も、もう、今日は
これで、やめようかなと…」

でもダメー。
逃がしませんわ♡

今夜はたっぷり
絞ってあげると
言いましたわよね。

ずぶっずぶっずぶっ
ずぶっずぶっずぶっ

僕：「ひいっ、無理、無理ですっ、連続でなんて、
だめっ、やめてっ、うっ、うっ、」

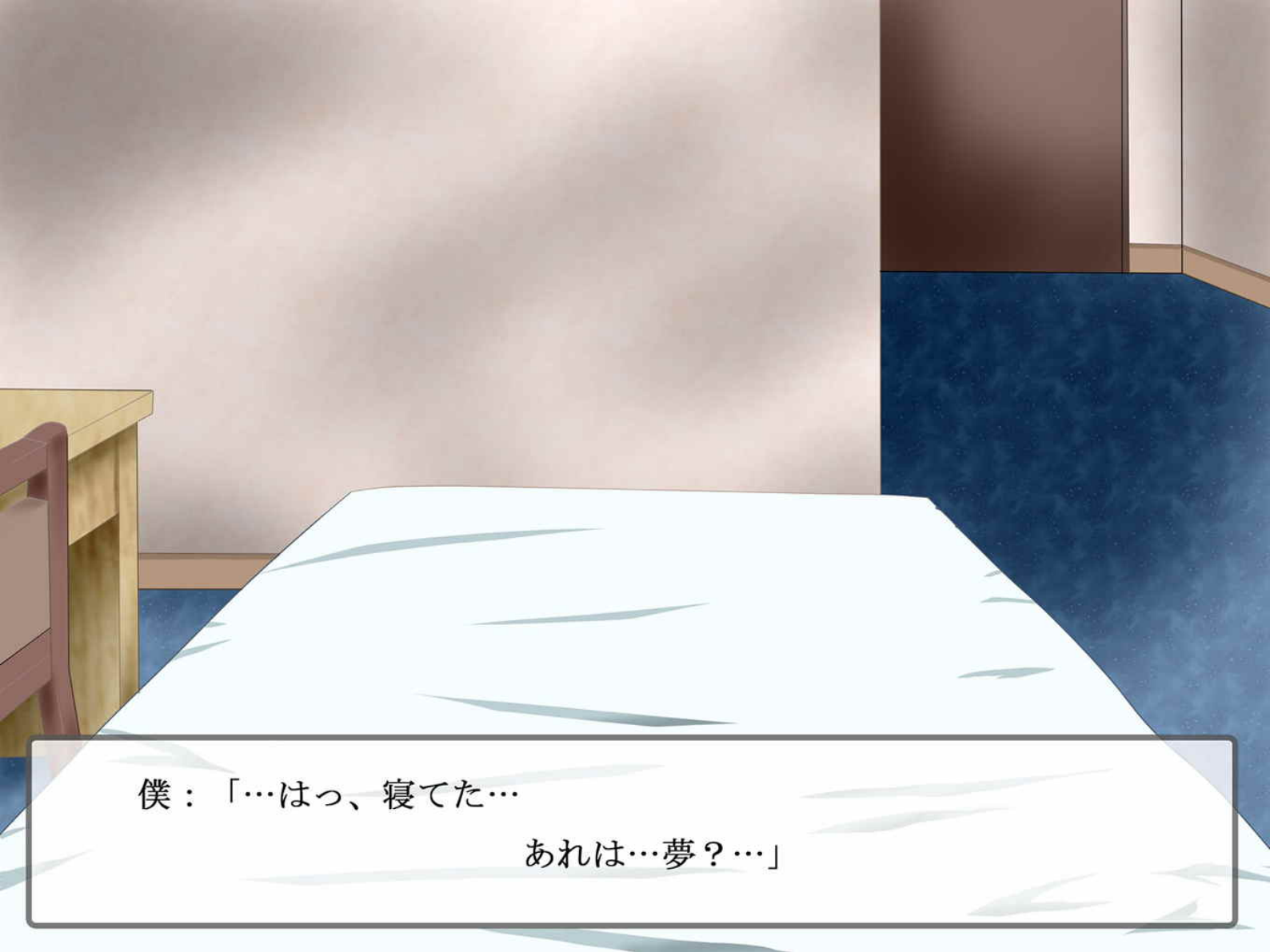
ひひひ、
またイきましたわ♡

何回でも
オイきなさいな。
私の下で♡



びゅっびゅっびゅっ

僕：「うっ、はああああ、許して、もう堪忍して…
助けて…、誰か…」



僕：「…はっ、寝てた…

あれは…夢？…」

お目覚め？

夢では

いらいませんか？

疲れて
寝てしまったの
ですね。



今日はいろいろ
ありがとうございました、

また神社に
きてくださいませ。

ゆっくり今夜は
おやすみ下さい
なのです。



私たちのこと
思い出してねいな。

勃起する度にね。

また遊びに
来るのですよ。

お金と精液を
貯めてですよ。
じゅぽ。





…数週間後

お久しぶり
なのです。
よく来てくれた
のですよ♥

まずは
ボクの顔面騎乗など
いかがですか♪

僕:「う…、う…」



ボクに顔の上に
座られて

おチンポこんなに
ピンコ立ちなのです。

うれしいですか？
いじめられた方が
興奮するのですか？

僕:「うー…、うー…」

ほじろ、
ピンピンおちゃんぽ
手で擦っちゃい
ますですよ。

ちよっと手で
擦っただけで
もっはち切れそう
なのです♥

シコシコシコ

僕:「ふうー…、ううううー…」



このまま
あっさり
イっちゃうの
ですか。

ボクのお尻の
下で何も出来ずに
イっちゃうの
ですか。

シコシコ
シコシコシコ

ムサムサ

僕:「ぐっ、うっ、うううう…」

あゝ
本当にイっちゃった
のです。

沙都子と二人で
じっくり甦る間も
なかったのです。

びゅびゅっ

僕:「うっ！」



無理やり顔に
お尻乗せられて
イカされるの
気に入りましたか？

ふう、また今度
してあげるのですよ。
にゅっ♡

僕:「ふう…、ふう…、ふう…」





よくいらっしやい
ましたわ、うふふ。

では、私もお尻で
イかせて
さしあげますわ♥

僕：「お尻で…
あ、あの…胸を使って
欲しいんですが…」

あら、私のお尻、
お嫌い？

ほろほろ
ムキムキして
いぢぢぢでめめめめ♥

ぽんぽんっ♥

僕：「うう…
はい、いやらしいです…」





おちんぽ、お尻に
近づけて♡

どうぞお好きに
お尻におちんぽを
こすり付けて
くださいましな♡

僕：「はああ…お尻…
お尻、柔らかそう…」



はい、おちんぽ
捕まえましたわ♡

お尻でおちんぽを
挟み込んで
逃がしませんわよ♪

ちゅっ

僕：「ほうわっ、急に
お尻にはさまれて…」

このまま締め付けて
イかせますわよ。

はい、キュッ、
キュッ、キュッ、
キュッ
いかがかしら♥

ちゅっちゅっ
ちゅっちゅっ

僕：「うあ、左右からお尻に
ちんぽが圧迫されるうっ」



ふふふ、
おっぱい目当てで
来たのに、

パンツはいたお尻に

はさまれて

イカされるのは

無念ですわね♡

そろ、おいきなさいっ

キュッ、キュッ、キュッ

キュッ、キュッ♡

ちゅっちゅっちゅっ

僕：「はあっ、ふっ、まっ、
待ってっ、あ、あ、ああっ」

あは、
出ましたわ♡

おちんぽ、お尻に
負けてしまいました
わね。ふふふ♡

びゅっ
びゅっ
びゅっ

僕：「で、出るううっ！」



はい、三千円
頂きますわ。

それにしても
こんなので
イっちゃうなんて。

うふふふふ、
貴方、なかなか素質が
ありますわよ♡

僕：「はあ、ふうっ、ふうっ、
はあ、はあ…」

お待ちせ
いたしましたわ。
おっぱいですわよ、
パイヌリですわよ。

このおっぱい
目当てで
ここまで来たの
でしょう？

僕「はい…」

ああ、おっぱいに
呑み込まれちゃうう…」



この数週間、
私のおっぱいに
イカされるのを
妄想してたの
でしょっ？

他の方も私たちに
イかせて欲しくて
何度も来て下さい
ますのよ♥

僕「はあああ…
おっぱいの中、
柔らかい、暖かい…」



あらあら
すっかり
おっぱいの感触に
心を持っていかれて
しまっ♡

腰を振って
おちんぽを
出し入れしても
よろしくです？

僕「うあ…動いたら
気持ちよくてすぐに
イっちゃいそうです…」



まあ、それでは
時間稼ぎの
ためにじっとして
らっしゃいますの？

このおっぱいを
動かしたら
どうなって
しまうのかしら？

僕「ああ、動かさないで…
もう少しおっぱいの感触を
味あわせて…」



何言ってますのっ
それなら
あっぱい動かすに
決まっていますわっ！

こすこす
一発にくたで
生活してきますのよっ
そらそらっ！

ぬるぬるぬるぬるぬるぬる

僕「ひ、ひいっ
き気持ちいい、いい
イク、イク、イクうう」



あは、出ちゃい
ましたわね♥
おっぱいの中で
中出しですわ。

お尻に続いて
おっぱいにも
完全降伏ですわね。

僕「またイくらう」

どびゅっ



あらあら、
ヒザが
ガクガクして
まじですよ。

ふふ、今日は
もうこれ以上は
無理みたい
ですわね。

僕「ああ…
はあ…はあ…」



では終わりに
しましうか。

服を着て。それと
パイソリの三千元
納めてくださいまし。

あ、う、うんか
けれまじうか？



このヌラはね、これを見て
興奮した馬鹿チンポを

こっやっこすりつけて
イカせるためのものですわよ♡

網目とパンスト生地が
亀頭を刺激するのが
たまらないでしょう？

僕「ひいい、
ひいいいい…」

すりすり



そっさって

身悶えしながら

おいきなさい。

とびきり

いい声で鳴いて

イってくださいいな♡

僕「ひえあ、
ひっ、ひっ
ひっ、ひっ…」

ずりずりずりずりずり

あははは

なんてなさけない

イキ声ですのっ

とっても

素敵ですわよ、

貴方♥

僕「ひひひひひ

ひひひひひ」

ぶしゅっ



今晚はここに
お泊りなさいな。
お疲れでしょ？

宿代はお安くして
おきますのです。



私がお料理、
手作りしますわよ。

精の付くものを
いっぱい食べて
下さいなのです。



沙都子「そしたら明日もかわいかってさしあげますわ♡」

梨花「金玉と財布が空っぽになるまでかわいかって
あげるのですよ、にば〜♡」

おしまい。

